

◆佐渡金銀山の情報をお伝えします



佐渡金銀山だより

Sado Gold and Silver Mine Newsletter



▲花角知事と三浦市長が林文部科学大臣、宮田文化庁長官に県民会議決議文を提出 (H30.6.15)

Vol.18
2018.6.29

再挑戦へ向けて推薦書 原案を修正しました

今号は推薦書原案の修正点をくわしく
報告するとともに、来春オープン予定の
佐渡金銀山ガイダンス施設を特集します。

Sado Gold and Silver
Mine Newsletter

第18号 INDEX

- 2.....▶推薦書原案の修正点
- 4.....▶(仮称) 佐渡金銀山ガイダンス施設の概要
- 6.....▶松榮家住宅が重要文化財指定に
▶追悼 田中圭一先生
- 7.....▶「佐渡は世界の宝島」首都圏イベントを
開催しました 他
- 8.....▶平成30年度 今後のイベント情報

推薦書原案の修正点

国内外の類似資産との比較分析に見る「佐渡鉱山の遺産群」の価値

佐渡には江戸時代の手工業の時代から明治時代の機械工業化を経て現代に至るまで、途絶えることなく続いた金銀生産と鉱山に関わった人々の営みの痕跡が数多く残されています。こうした佐渡に残る物証は、世界史においてどのような意義(価値)を有するのか、数百箇所にも及ぶ国内外の類似資産・遺跡等との比較分析を進めてきました。

●「大航海時代(16世紀頃)」から「産業革命」に至る貴金属生産の2つの流れ

佐渡で鉱山開発が進められた16世紀から19世紀は、世界的に貴金属の需要が高まり、その需要を満たすために世界各地で生産が行われました。特に西欧を中心として科学が大きく進展し、産業革命に向かって技術が劇的に変化するのがこの時期です。この時期の世界の貴金属生産体制を整理すると、西欧と非西欧という、大きく2つの流れとして捉えることができます。

●「西欧型」の貴金属生産

西欧では商人などが資本家へと成長を遂げ、鉱業は民間の大資本(会社組織)の投資によって行われるようになります。「労働力を節約」するため「機械装置を多く用いる生産体制」が展開するのも大きな特徴です。こうした生産体制の影響は、早い段階で欧州各地やアメリカ地域等に波及して、それらの地域の貴金属生産に大きな変化をもたらしました。

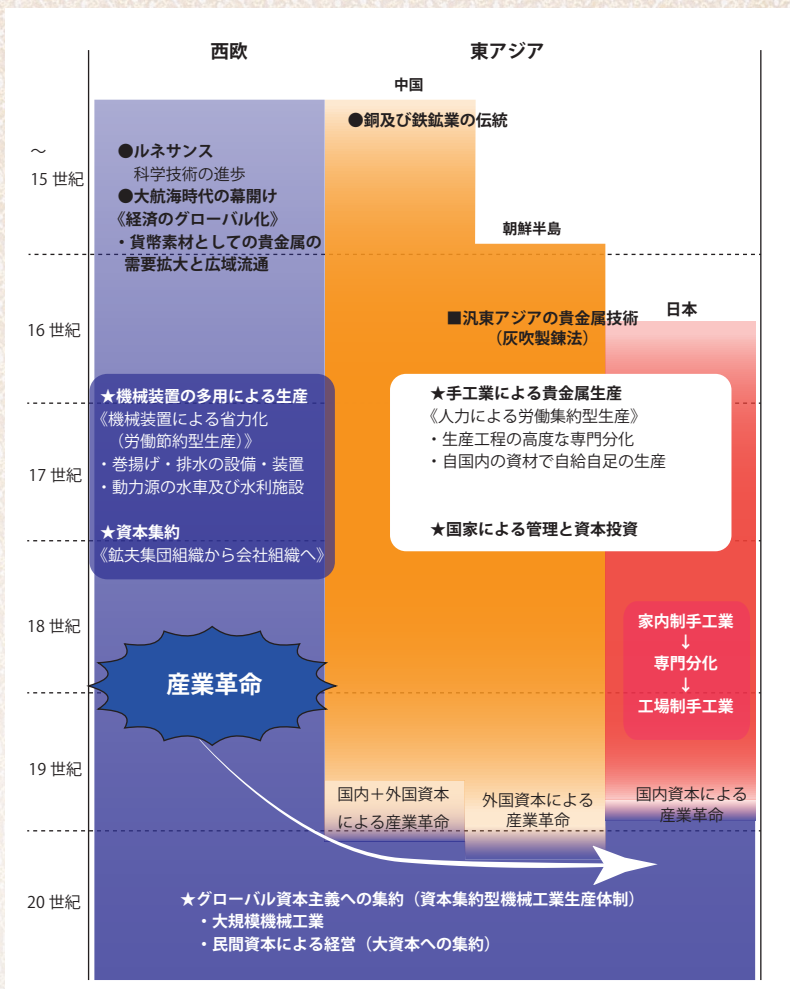
●「非西欧型」の貴金属生産

一方、中東、アジアなど非西欧圏の多くでは、国家が強く関与をしながら、潤沢な労働力の投入が可能な状況を背景として「人の力」を主体とした「手工業」による生産体制を展開していました。佐渡の資産は、東アジアで独自の展開を遂げた手工業による技術の痕跡と生産組織を反映した鉱山集落・鉱山町の物証です。

海外の知識や物資流入が限定された「鎖国」という特異な状況下において、佐渡では高度に発展し、受け継がれた手工業の伝統により、当時世界トップレベルとなる高品位の金の獲得を成し遂げました。さらには西欧発の産業革命の影響によって機械工業化する際にも、手工業の時代に確立された貴金属生産体制の伝統が短期間のうちに円滑な機械化を進める礎となったことを示しています。

●世界遺産に登録の鉱業関連の資産と佐渡の資産

世界遺産に登録されている鉱業関連資産は、欧米地域の機械化された鉱業に関する資産が多く、手工業による生産体制を示す鉱業資産はごくわずかしかありません。また、長期間操業が続いた貴金属鉱業関連資産の多くは、機械化によって手工業時代の痕跡を破壊・改変して続けられており、機械化以前の物証はほとんど残っていません。さらに、鉱山町についても、建築様式の稀少性などを主題とするものが多く、佐渡のように生産性の向上を追求し、計画的に作り上げられた集落構造の展開を価値の主題とするものはごくわずかしかありません。佐渡の資産は手工業による貴金属生産と、手工業の生産体制と伝統を基盤として円滑な機械工業化に成功したことを示す西欧にはない生産体制の伝統を物語っています。



◆佐渡金銀山の文化的伝統

評価基準iii：現存するか消滅しているかにかかわらず、ある文化的伝統又は文明の存在を伝承する物証として無二の存在（少なくとも稀有な存在）である。

世界の鉱山と佐渡金銀山を改めて比較研究することによって、佐渡金銀山は手工業による鉱山開発の伝統を示す世界的に稀有な鉱山であることが明らかとなりました。

佐渡における金銀生産は、西三川砂金山の砂金鉱床及び鶴子銀山、相川金銀山の鉱石鉱床、それぞれに対応した高度に専門分化した手工業によって行われ、それぞれの鉱山技術や生産組織に適応した特徴的な鉱山集落が形成されました。各鉱山には、生産と居住の遺跡が併存し、下図のように時代を追って展開した痕跡が良好に保存されています。このような鉱山遺跡は他に存在せず、世界遺産の評価基準iii「文化的伝統の稀有な物証」であると考えます。

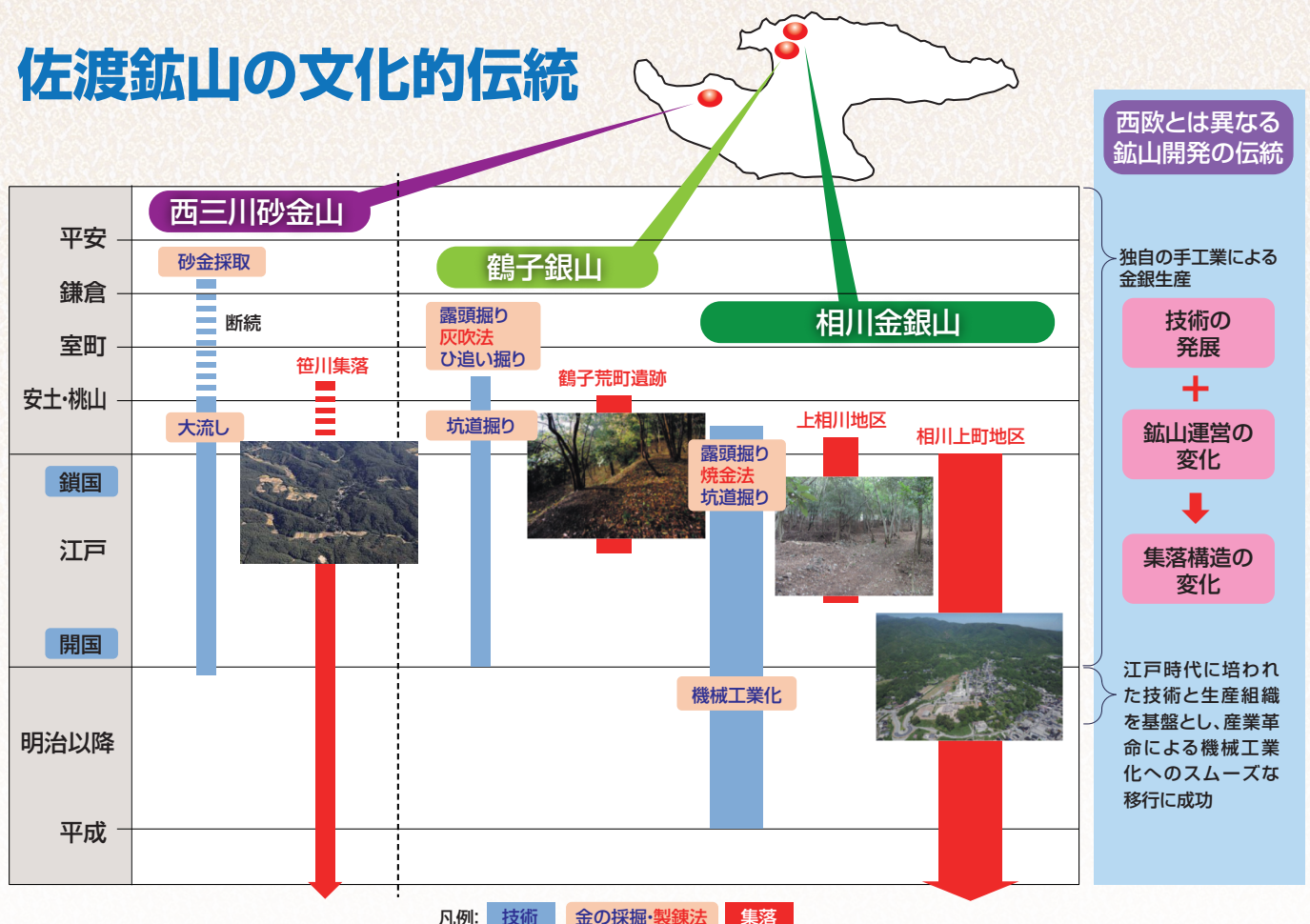
昨年までの推薦書原案では、7つの構成資産候補をあげていましたが、価値を捉え直すことと同時に構成資産の見直しを行いました。近年の世界遺産審査では、価値と直接結びつく説明が構成資産に求められる傾向にあるため、佐渡金銀山でも、西三川砂金山、鶴子銀山、相川金銀山の3資産に厳選しました。

一方、候補から外した吹上海岸石切場跡、片辺・鹿野浦海岸石切場跡、大間港、戸地川第二発電所の4遺跡は、佐渡金銀山の一連の資産である国史跡として、今後も活用を図りながら大切に保存していきます。



相川金銀山 道遊の割戸

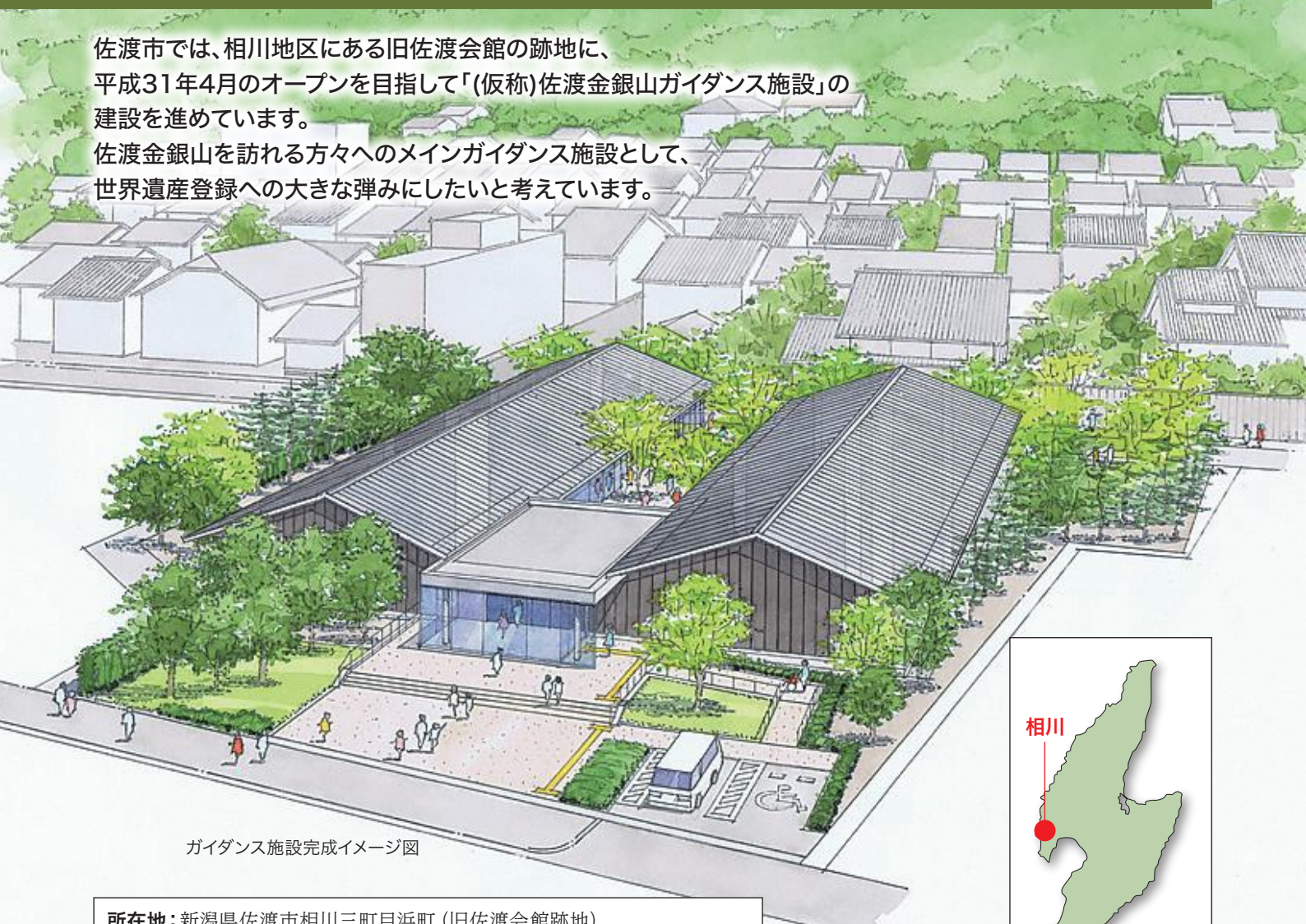
佐渡鉱山の文化的伝統



(仮称)佐渡金銀山ガイドンス施設の概要

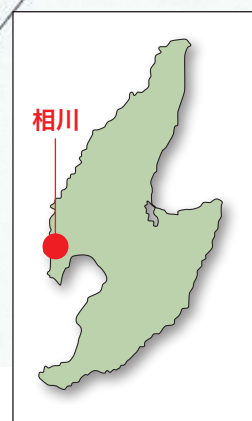
佐渡市では、相川地区にある旧佐渡会館の跡地に、平成31年4月のオープンを目指して「(仮称)佐渡金銀山ガイドンス施設」の建設を進めています。

佐渡金銀山を訪れる方々へのメインガイドンス施設として、世界遺産登録への大きな弾みにしたいと考えています。



ガイドンス施設完成イメージ図

所在地: 新潟県佐渡市相川三丁目浜町 (旧佐渡会館跡地)
規模: 敷地面積3,075㎡、延床面積1,093㎡、建物の高さ5.78m
構造: 鉄骨造 (新築)、地上1階
設備: 展示室、ガイドステーション、講堂、資料室、事務室など

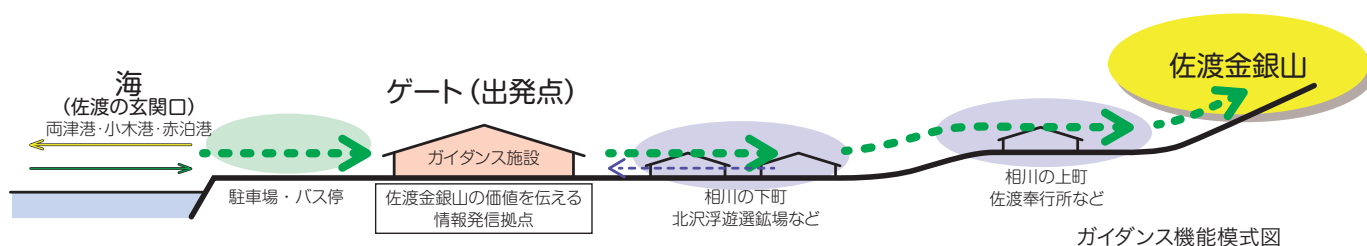


ガイドンス施設位置図

ガイドンス施設の目的

ガイドンス施設では、佐渡金銀山の価値をわかりやすく紹介するとともに、来訪者の皆様が現地へと誘導するための情報提供の拠点を目指しています。本施設を、現地へ向かう来訪者のゲート (出発点) とし、現地への円滑な誘導を図ります。

また、施設内には佐渡金銀山を紹介する展示室の他に、ガイドツアーの受付を行うガイドステーションや世界遺産関連の講演会や研修などの会場となる講堂も設ける計画です。

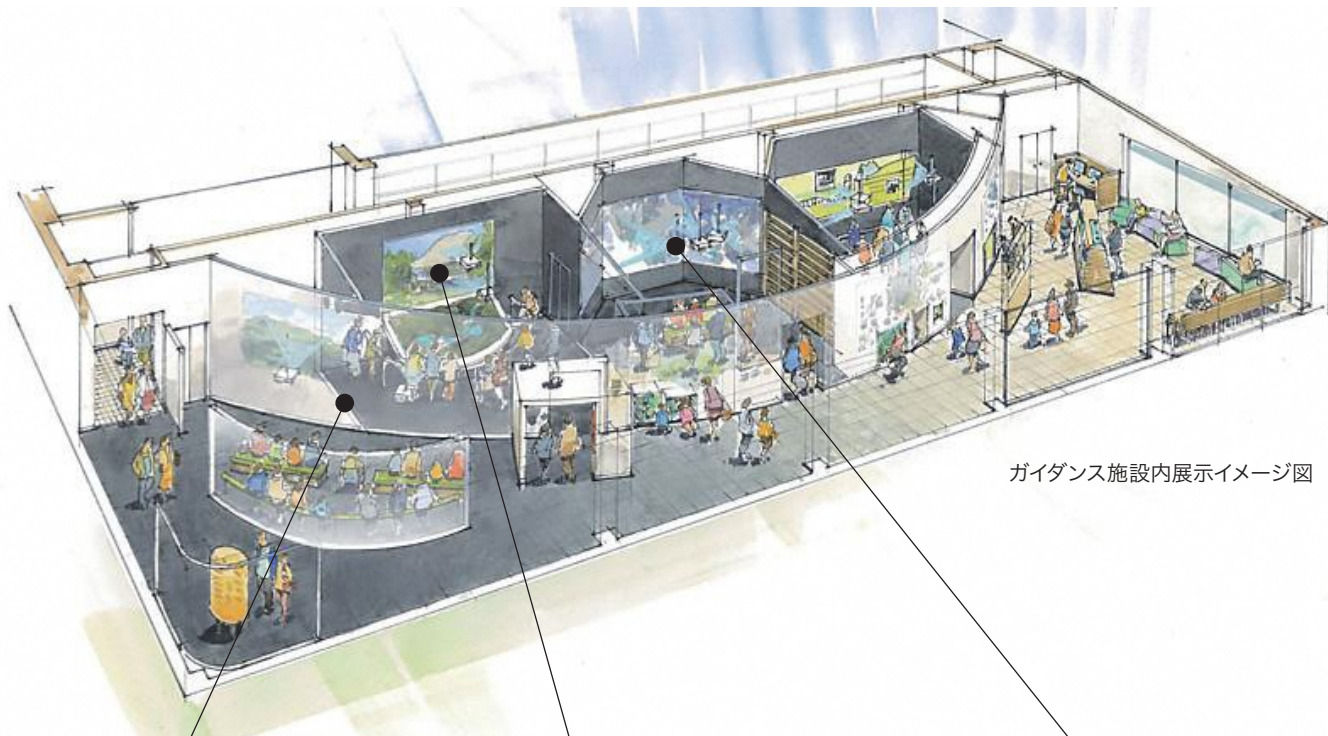


ガイドンス機能模式図

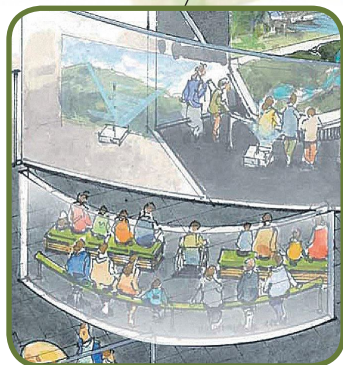
ガイドンス 施設の 展示内容

ガイドンス施設では、佐渡金銀山の魅力や価値をわかりやすく紹介するため、映像や写真、地図等を中心に、展示を構成する予定です。展示室内の壁面には、佐渡金銀山の歴史を絵巻のような形で紹介するほか、現地をより良く理解できるように解説映像を上映します。

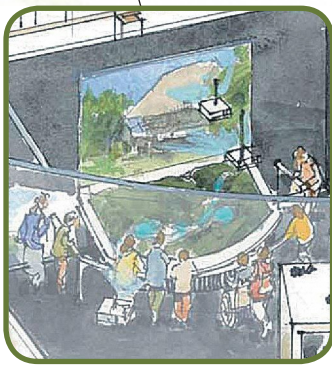
また、来訪者の方々が現地を円滑に見学できるよう、史跡の場所や説明等の情報を提供するほか、佐渡金銀山に関する書籍等が閲覧できるライブラリーの設置や保存・活用に関する取組み、絵図や絵巻等の各種資料などを紹介する計画です。



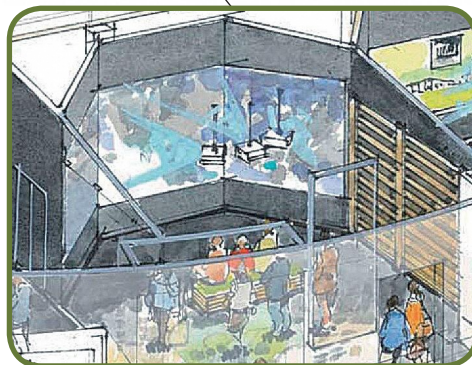
ガイドンス施設内展示イメージ図



プロローグ「豊穡の島 佐渡」



シアター①
山を掘り崩す砂金採り「大流し」



シアター②
採鉱～小判製造の一貫生産システム

(注：展示造作等は変更する可能性があります)

★プロローグ「豊穡の島 佐渡」

入口すぐのプロローグ「豊穡の島 佐渡」では、佐渡島の位置・規模や金銀山の概要、人々の暮らしや集落・町の発展、民俗・芸能、暮らしを支えた農漁業や豊かな自然を映像で紹介します。

★主展示「金銀生産技術の世界」

展示室中央部の主展示では、3つのシアターにより、金銀の鉱床（砂金・鉱石）と、時代により大きく異なる3つの生産技術を示す遺構が一つの島にまとまって残されている佐渡金銀山の価値を最新の映像技術で見ることができます。①西三川砂金山で利用された山を掘り崩して砂金を採る「大流し」と呼ばれる技術、②徳川幕府の屋台骨を支えた金銀鉱石の採鉱から小判製造までの一貫した生産システム、③明治時代以降の近代鉱山の操業に係した機械化による大量生産技術を紹介します。

相川 松榮家住宅が 重要文化財 指定に

平成30年5月18日に開催された国の文化審議会において、佐渡市相川に所在する松榮家住宅（主屋、新蔵、オモ蔵）を重要文化財に指定するよう、文部科学大臣に答申がなされました。

松榮家住宅は、江戸時代から鉱山や廻船などで財を成した相川を代表する豪商の住まいで、指定される建物は明治44年（1911）に建築されました。

主屋は、木造切妻造の棧瓦葺きで、主体部、客間部、座敷部、仏間部からなり、主体部のオエとチャノマは、重厚な軸部と広大な吹抜によって、雄大な空間となっています。また、客間部や座敷部などの接客間は、佐渡屈指の上質な書院座敷を構成しています。このほか、大きな軸に覆われた漆喰塗りの土蔵2棟も建築当初の状態を良好に保持しています。

棟札により建築年代が明らかな当家は、佐渡の伝統的な町家形式を継承しながら拡張と発展を遂げた優れた空間構成を持つ、雄大かつ上質な住宅として高い価値が示されました。

所有者である松榮和津さんは、「大変ありがたく思う。建物は先祖代々守ってきたが、重要文化財となってもこれまで同様に大切に守っていきたい。」とのコメントを本誌に寄せました。

※個人の住宅であり、一般公開は行っておりません。



松榮家住宅（主屋）外観 （撮影 小野吉彦）



オエ・チャノマの広大な空間 （撮影 小野吉彦）

追悼

田中圭一先生

佐渡の近世史研究に数多くの業績を残された田中圭一先生が、平成30年4月4日、87歳でご逝去されました。

佐渡高校教諭時代、鉱山史が専門の小葉田淳教授に師事されて以来、佐渡金銀山について独自の視点で研究を続け、その集大成ともいえる『佐渡金銀山の史的研究』で博士号を取得されました。また、筑波大学の教授にご栄転された後も、月に一度は佐渡に帰省され、郷土史講座の講師をつとめるなど、研究の基盤である佐渡を大切にしてくださいました。

島根県に請われて、石見銀山の世界遺産登録に向けた調査に携わるようになった田中先生が、佐渡金銀山の世界遺産登録運動を提言されたのは、金銀山史の研究者としての当然の思いからでした。田中先生をはじめとする佐渡の歴史研究者が今日までに成しとげた成果、例えば文献史料の翻刻などが無ければ、世界遺産登録に向けた調査と研究は大変困難なものになっていたことでしょう。『佐渡相川志』や『佐渡国略記』などの貴重な史料を活字化し出版するという大事業を実現させたのも、田中先生の熱意の賜物でした。

佐渡の大切な文化遺産である金銀山の世界遺産登録を目指し、後世にその歴史を伝え、守っていくための環境を整えることが、何よりも先生の学恩に報いることになると思います。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



「佐渡は世界の宝島」首都圏イベントを開催しました



平成30年5月19日(土)に大崎ブライツコアホール(東京都品川区)において、首都圏における世界遺産登録への新たな応援層獲得と交流人口の拡大に向け、「首都圏イベント」を開催しました。会場には、首都圏在住の佐渡出身者や今回発表いただいた佐渡首都圏大学連携校の関係者など、約350人の方が参加しました。

オープニングの狩野泰一氏による「篠笛」披露の後、支援民間団体を代表し、「佐渡を世界遺産にする首都圏の会」の坂田会長が、首都圏における世界遺産登録の取組を報告されました。その後、佐渡首都圏大学連携校の4大学から「世界遺産を未来へ伝える」をテーマに、佐渡でのフィールドワークなどの実

践活動を通じて見てきた課題やその対応策の提言をいただきました。また、世界文化遺産に登録されている熊野古道から和歌山県世界遺産センター長の辻林浩氏と、石見銀山から前大田市教育長の大國晴雄氏をお招きし、三浦佐渡市長をコーディネーターに「世界遺産―地域の宝から世界の宝へ―」をテーマに鼎談がなされ、大学生による提言も踏まえ、佐渡においても地域の宝を「守り・伝える」活動が佐渡観光や経済の活性化などにつながることなど、活発な議論が展開されました。



佐渡金銀山世界遺産登録推進県民会議総会を開催

平成30年4月22日(日)、新潟市内で佐渡金銀山世界遺産登録推進県民会議の総会を開催しました。

この県民会議は、佐渡金銀山の世界文化遺産登録に向けた気運醸成を図ることなどを目的に、平成26年2月に発足しました。現在1,250を超える県内外の企業・団体が加盟しています。

今回で4回目となる総会には、定員を超える333名の方に御参加いただき、今年度の推薦実現に向けた気運が盛り上がっていることを広くアピールする機会となりました。

第1部の総会では、益田浩新潟県副知事、佐藤信秋参議院議員のあいさつに続き、世界遺産登録の早期実現に向け、国からの推薦を求める決議が採択されました。さらに、佐渡金銀山の価値の周知や、将来の世代へ引き継ぐための保全活動に、会員が一致協力して取り組むことを宣言しました。

また、会員企業・団体の取組について、東日本高速道路株式会社新潟支社、佐渡汽船株式会社から報告がありました。

第2部は記念講演として、株式会社日本総合研究所首席研究員の藻谷浩介氏から講演いただきました。

まず藻谷氏は、イメージや空気を鵜呑みにすることなく、常に事実を数字で確認することを強く述べられました。また、数値を読み取ることで今後の外国からの訪日客数が予測できたり、世界遺産に登録された資産を持つ市町村での人口流



講師の藻谷浩介氏

入状況を比較するなど、藻谷氏が実際に調べたデータが示されました。

地域活性化とは何か、地域が自立し存続するためにはどのように考えていくべきかなど、世界遺産登録後を見据えた取組を考えるにあたって、大変貴重なお話をいただきました。



平成30年度

今 後 の イ ベ ン ト 情 報

※詳細は、チラシやホームページ、市報等でお知らせします。

■佐渡金銀山世界遺産講演会「佐渡金銀山調査報告」

お申込み先：佐渡市産業観光部世界遺産推進課 TEL0259-63-5136

◆構成資産の坑道に係るロボットを用いた坑道跡等の調査報告や体験学習を行います。

講師：久間英樹氏(松江工業高等専門学校教授)

・日時：平成30年 7月14日(土)9:00～15:00 ・会場：金井コミュニティセンター ・主催：新潟県、佐渡市

■親子で歩く佐渡金銀山

お申込み先：佐渡市産業観光部世界遺産推進課 TEL0259-63-5136

◆笹川地区の散策をしたり、砂金採り体験を行います。

・日時：平成30年7月28日(土)8:00～12:30 ・会場：西三川地区 ・主催：佐渡市

■世界遺産連続講座(第1回)

お申込み先：新潟県文化行政課世界遺産登録推進室 TEL025-280-5726

◆テーマ「佐渡金銀山～近代鉱山の幕開けと操業～」 講師：宇佐美 亮(佐渡市産業観光部世界遺産推進課調査係長)

・日時：平成30年8月25日(土)13:30～15:00 ・会場：ほんぽーと 新潟市立中央図書館 ・主催：新潟県、佐渡市

■世界遺産連続講座(第2回)

お申込み先：新潟県文化行政課世界遺産登録推進室 TEL025-280-5726

◆テーマ「佐渡相川の文化的景観の特質と魅力」 講師：伊藤毅氏(青山学院大学教授、東京大学名誉教授)

・日時：平成30年9月22日(土)13:30～15:00 ・会場：ほんぽーと 新潟市立中央図書館 ・主催：新潟県、佐渡市

■北沢地区草刈りボランティア

お申込み先：佐渡市産業観光部世界遺産推進課 TEL0259-63-5136

◆北沢地区で遺跡周辺の草刈りやごみ拾いなどを行います。

・日時：平成30年10月6日(土)10:00～12:00 ・会場：北沢地区 ・主催：新潟県、佐渡市

■世界遺産連続講座(第3回)

お申込み先：新潟県文化行政課世界遺産登録推進室 TEL025-280-5726

◆「遠隔操作ロボットと3次元レーザスキャナを用いた佐渡金銀山遺跡の調査報告」

講師：久間英樹氏(松江工業高等専門学校教授)

・日時：平成30年10月20日(土)13:30～15:00 ・会場：ほんぽーと 新潟市立中央図書館 ・主催：新潟県、佐渡市

■世界遺産セミナー

お申込み先：新潟県文化行政課世界遺産登録推進室 TEL025-280-5726

◆世界遺産についての講演や県内小学生による佐渡金銀山学習発表会を行います。

・日時：平成30年11月18日(日) ・会場：朱鷺メッセ ・主催：新潟県、佐渡市

■佐渡金銀山首都圏講演会

お申込み先：新潟県文化行政課世界遺産登録推進室 TEL025-280-5726

◆佐渡金銀山の価値と魅力について、専門家による講演を行います。

・日時：平成31年2月2日(土) ・会場：星陵会館(東京都千代田区) ・主催：新潟県、佐渡市

新潟県・佐渡市

平成30年6月29日発行

新潟県教育庁文化行政課世界遺産登録推進室

TEL025-280-5726

E-mail ngt500080@pref.niigata.lg.jp

佐渡市産業観光部世界遺産推進課

TEL0259-63-5136

E-mail k-goldmine@city.sado.niigata.jp